

# フォスタリングチェンジ・プログラム 2020年度実施報告



一般社団法人 無憂樹



一般社団法人 無憂樹

はじめに .....	01
フォスタリングチェンジ・プログラムについて .....	02
プログラムの概要 .....	03
2020年度実施状況の概要 .....	05
実施報告	
フォスタリングチェンジ・プログラム in 札幌 .....	06
フォスタリングチェンジ・プログラム in 仙台 .....	07
フォスタリングチェンジ・プログラム in 東京 .....	08
フォスタリングチェンジ・プログラム in 横浜 .....	09
フォスタリングチェンジ・プログラム in 山梨 .....	10
フォスタリングチェンジ・プログラム in 京都 .....	11
フォスタリングチェンジ・プログラム in 大阪 .....	12
フォスタリングチェンジ・プログラム in 広島 .....	13
フォスタリングチェンジ・プログラム in 山口 .....	14
フォスタリングチェンジ・プログラム in 福岡 .....	15
フォスタリングチェンジ・プログラム in 佐賀 .....	16
フォスタリングチェンジ・プログラム in 大分 .....	17
フォスタリングチェンジ・プログラム in 長崎 .....	18
フォスタリングチェンジ・プログラム in 熊本 .....	19
ファシリテーターフォローアップミーティング .....	20
プログラムに関する里親の評価 .....	21
総括 2020年度の実践と今後の課題 .....	23

## フォスタリングチェンジ・プログラムのさらなる一歩

### —オンラインによる開催とこれからの可能性—

一般社団法人 無憂樹 代表 上村 宏樹

フォスタリングチェンジ・プログラムの最初の養成講座が2016年3月に実施されて、すでに4年の年月が経ちました。この年次報告書も5冊目となり、これまでの報告書を読み返すと、各地の実践の取り組みやその変化、ご苦労されてきたことが読み取れます。これまで、フォスタリングチェンジ・プログラム自体の導入と実施のみならず、事前調査から、事後のフォローアップまで様々な困難と克服のプロセスがあったと思います。そして、この2020年度のフォスタリングチェンジ・プログラムの取り組みは、新型コロナウイルスの影響により、各地のフォスタリング機関はより一層の困難と工夫を迫られました。新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が出され、様々な行事や催し物が延期、または中止を迫られる中、フォスタリングチェンジ・プログラムもまた例外ではありませんでした。しかし、新型コロナの状況下で、虐待やDVなどの数が増えたという各国の報告にあるように、家庭に多くのストレスや困難がもたらされる中、このような時だからこそフォスタリングチェンジ・プログラムの知恵と技術、そして取り組みが必要だと言えるのだと思います。多くの地域で延期や中止が余儀なくされる中、それでも何とか最善の感染対策をして、模索しながらも全国14か所でフォスタリングチェンジ・プログラムが実施されたことは非常に意義のあることだと思います。また、フォスタリング機関の職員自身にもストレスがかかる中、そのご苦労は並々ならぬものであったことは想像に難くありません。

フォスタリングチェンジ・プログラムのファシリテーター養成講座についても、2020年2月と3月の講座が新型コロナにより延期となり、その振替となった2020年9月も再延期せざるを得ませんでした。再延期しても次いつ実施できるか不透明なままでしたが、各地からは何とか養成講座を受け、フォスタリングチェンジ・プログラムの実践につなげたいという声を数多くいただきました。これまで養育プログラムなど対人援助に関する講座は、オンラインで実施することは困難だと思っていましたが、フォスタリングチェンジ・プログラムの事務局としても、ニーズに応え、新型コロナ禍においても確実に実施できるようにすべく、オンラインでのファシリテーター養成講座の実施に舵を切りました。松崎先生、上鹿渡先生、トレーナー、そして事務局で養成講座のプログラムを見直し、どのようにすればオンラインで可能かを検討していきました。またプログラムの開発者、キャシー(Kathy Blackeby)や、キャロライン(Caroline Bengo)の両氏も快く同意していただき、かつ助言をいただきながらオンライン開発を進め、なんとか2021年2月に、フォスタリングチェンジ・プログラムのファシリテーター養成講座オンライン版が、

おそらく世界でも初めて実施されました。養成講座のオンライン化に向けては、それに先立ちオンラインで行われていたフォローアップミーティングの経験を踏まえ、各地のフォスタリング機関の皆さんからも貴重な意見と励ましをいただきました。フォスタリングチェンジ・プログラムに関わるみんなで作っていったものだと思います。

その中で、1つ大切な考え方として、ファシリテーター養成講座のオンライン版は単なる対面版の代替ではなく、むしろオンラインだからこそできることを活かして作っていく、というのがありました。また、このようにオンライン化を活かすことで、遠方からもより参加しやすい、時間的にもプログラムが組みやすい、映像で再現しやすいなどメリットも見出されました。もちろん、対面部分のフォローや実施の注意点も考える必要がありましたが、それらを補いながら、オンラインを活かすことでより大きな可能性も見えてきました。今後はより広い範囲で、またより実施しやすい形でフォスタリングチェンジ・プログラムや養成講座が実施されることも可能になってくると思います。いずれは国をまたぐことも実現するかもしれません。

この困難をみんなで支えながら乗り越え、そして認知・フレームを変えて現状を活かしていくという在り方は、フォスタリングチェンジ・プログラムでも大事にされていることだと思います。これからも様々な困難があると思いますが、日常でもまさにフォスタリングチェンジ・プログラムを実践しながら、フォスタリングチェンジ・プログラムに関わる皆さんと一緒に、事務局一同これからも取り組んでいきたいと思えます。その思いをより一層強く持ちながら、そして現在も続いている大変な状況が1日も早く収束することを祈りつつ、この第5回目の報告書を届けさせていたいただきたいと思えます。



## フォスタリングチェンジ・プログラムについて

早稲田大学教授・児童精神科医 上鹿渡 和宏

2016年改正児童福祉法に示された「家庭養育優先原則」を実現するために、2018年7月都道府県計画策定要領が国から提示されました。そして2020年度には、全国の自治体がこれからの新しい社会的養育体制構築に向けて動き始めました。今後代替養育については、里親委託における養育の質をどう担保するかが大きな課題です。里親養育を包括的に支援するフォスタリング機関の設置と同時に個々の里親の養育スキルの向上も必要とされています。

フォスタリングチェンジ・プログラムは、1999年ロンドン・モーズレイ病院の専門家チームによって開発された、子どもが委託されている里親のための研修プログラムです。アタッチメント理論、社会的学習理論に基づき、週1回3時間、里親グループ(6~10人程度)でのセッションを12回実施します。社会的養護下の子どもを抱える課題、様々な虐待の影響に配慮した子どもの視点での理解と、それに基づく対応について学びながら実践を続けることで、子どもの行動の背景にあるニーズに気づき、対応できるようになることを目指します。里親が自分で問題を見つけるための方法や考える枠組を提供します。さらに、里親の自尊感情や自信を回復する重要性が明示されている点も特徴的です。参加者は必要な専門的知識を子どもとして、また親としての自身の経験に照らしつつ、他の養育者の経験やロールプレイ、グループ討論などを通して学び、それが確実な実践につながるように工夫されています。このプログラムでは、まず子どもとの関係の改善・向上に力点を置きます。問題行動への直接的アプローチに類する実践的スキルは後で学ぶことになります。また、実施前の家庭訪問による聞き取り調査やプログラム開始前と終了時の客観的尺度を用いての評価が組み込まれており、さらにセッション毎のアンケートも準備されています。ロンドン大学キングスカレッジのチームにより、ランダム化比較試験(RCT)という信頼性の高い研究方法で、このプログラムの短期的効果についての評価もなされ、効果が確認されています。

日本への導入にあたっては、SOS子どもの村JAPANと福岡市が連携し、日本財団からの助成を受けて企画委員会が立ち上げられました。第1回ファシリテーター養成コースが2016年3月に福岡市で実施され20人のファシリテーターが受講し、同年5月から福岡市で日本最初の里親向けプログラムが実施されました。懸念された出席率も97%と非常に高いもので、参加者からもたいへん好評でした。本プログラムの準備・実施を通して里親支援者の専門性向上も期待でき、個別相談においてもそれぞれに応じた助言に生かすことができることがわかりました。その後、熊本でも乳児院を

会場にプログラムが実施されました。

また、2017年2月には東京で第2回ファシリテーター養成コースが開催され、同年度中に全国11か所で里親向けプログラムが実施され、およそ70名の里親を対象に実施した評価により、プログラムの効果も確認されました。その後2018年3月長野県、同年8月宮城県、2019年3月和歌山県でファシリテーター養成コースが開催されました。特に和歌山での第5回養成コースでは日本人トレーナーによるファシリテーター養成コース実施に向けてトレーナー5名の養成・認定もなされ、無事5名の日本人トレーナーが誕生しました。

ところで、本プログラム導入にあたってSOS子どもの村JAPANが担ってこられた重要な事務局機能が、2019年度から一般社団法人無憂樹に移行されました。2019年8月には福岡市で日本人トレーナーによる養成コースを初めて実施し、これまでのファシリテーター養成コース修了者数は125名となりました。また、2019年度は前年度より4か所多い全国22か所でおおよそ130名を対象(養育里親以外の受講者も含む、2016年度からの総計はおおよそ340名)にプログラムが実施され、プログラム実施効果の評価についても各実施機関のご協力をいただきながら進めました。さらに、現場から要望の多かった思春期版プログラム(12+)についても、日本語版パワーポイント、配布用資料、テキスト暫定版を完成させ、それらをもとに福岡市で初めて実施し、その後熊本でも実施しました。2020年度は新型コロナウイルス感染が拡大する中、当初はファシリテーター養成コースや里親向けのプログラムも中止・延期となりましたが、年度後半からは十分な感染対策を実施しながら里親向けプログラムを対面実施できた地域もあります。またファシリテーター向けのフォローアップミーティングをリモート開催し、その経験も生かしてファシリテーター養成コースと12+養成コースもリモートで開催できました。フォローアップミーティングについては全国からの参加がしやすくなり、参加人数も多く内容も充実し、感染拡大収束後もリモート開催の継続が検討されています。

全国でこれまで以上に里親養育の質の担保に向けた取り組みが求められています。その方法の一つとしてフォスタリングチェンジ・プログラムの実践はこれまで以上に必要とされるでしょう。フォスタリングチェンジ・プログラムを実践する中で得られた関係や知識、経験は他の里親養育支援においてもとても役立つものです。

それぞれの地域において里親養育支援に携わる方々と養育者の努力が、子どもにとっての様々な良い変化(成果)につながることを期待しています。

## フォスタリングチェンジ・プログラムの概要

フォスタリングチェンジ・プログラムは、アタッチメント理論、社会的学習理論、認知行動理論に基き、ペアレントトレーニングの考えも取り入れて1999年にロンドンのモーズレイ病院の専門家チームによって開発されたものです。その後、現場での実践と評価を経て2011年に改訂版のマニュアルが出版され、これに基づいた無作為比較試験(RCT)が2012年に実施されました。社会的養護下にある子どものかかえる問題、特に様々な虐待の影響に配慮した子どもの理解とそれに基づく対応について、子どもの長所に焦点をあて、育み、認証し、実践的なスキルを学び、家庭で実践するプログラムです。効果的な褒め方やアテンディング、限界設定やタイムアウトなどについて学びながら実践し、里親自身が自分で考え対応できるようになることを目指すプログラムとなっています。

プログラムの実施構成は、以下の通りである。

- 通常版  
週1回3時間、里親グループでのセッションを12回(約3か月)継続。  
対象者は、実際に2歳から12歳未満の里子を養育している里親12名まで。
- 思春期版  
週1回3時間30分、里親グループでのセッションを12回(約3か月)継続。  
対象者は、12歳以上から18歳未満の里子を養育している里親12名まで。
- 最低2名のファシリテーターが担当する。
- お茶やお菓子が用意され、温かい雰囲気のなかで実施される。

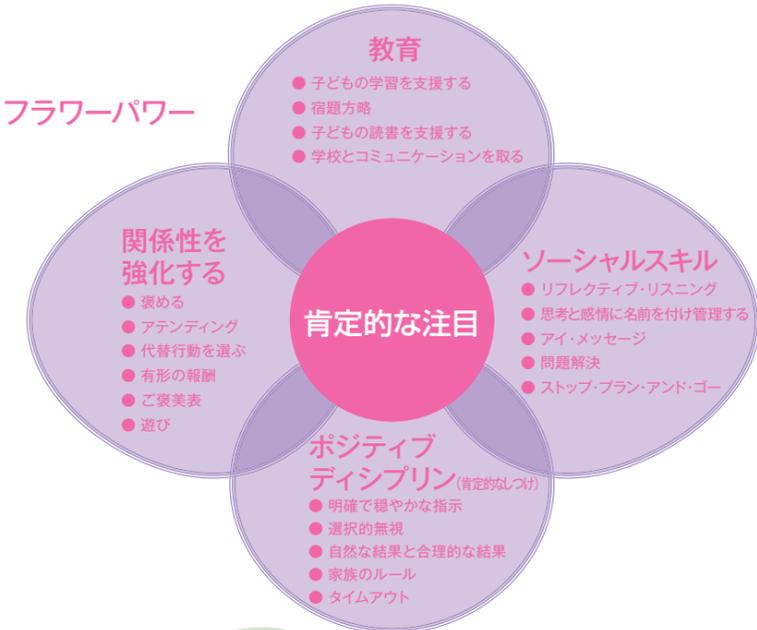
プログラム内容は、以下のフラワーパワーに示されているような4つ要素からなっている。

- 通常版  
養育に最も必要な要素として「**温もり**」と「**観察**」が基本となり、中核に「**肯定的な注目**」がある。  
以下の①から④の順番でセッションが実施される。
  - ① **関係の構築**～ほめる、アテンディング(肯定的注目)、代替行動の選択、有形のご褒美、ご褒美表
  - ② **教育**～子どもの学習の支援、宿題方略、子どもの読書を助ける、学校との連携
  - ③ **ソーシャルスキル**～リフレクティブ・リスニング、考えと感情のラベリングと管理、アイ(私は)メッセージ、問題解決、ストップ・プラン・アンド・ゴー
  - ④ **ポジティブ・ディシプリン(肯定的しつけ)**～明確で冷静な指示、選択的無視、自然な結果と合理的な結果、家族のルール、タイムアウト
- 思春期版  
養育に最も必要な要素として「**温もり**」と「**観察**」が基本となり、中核に「**ポジティブな世話/注目**」とともに、思春期特性への理解として**アタッチメントとレジリエンス(回復力)**がある。以下の①から④の順番でセッションが実施される。
  - ① **関係性を強化する**～褒める、1対1の時間、代替行動を選ぶ、有形の報酬、ポイント・チャート
  - ② **教育**～子どもの学習支援、読書、宿題や勉強を行うことを激励する、学校とコミュニケーション、アイ・メッセージ
  - ③ **ソーシャルスキル**～リフレクティブ・リスニング、思考と感情に名前を付け管理する、問題解決、ストップ・プラン・アンド・ゴー
  - ④ **ポジティブ・ディシプリン(肯定的しつけ)**～明確で穏やかな指示、選択的無視、自然な結果と合理的な結果、家族のルール、外出禁止、家事、検査は禁止

さらに、プログラムの特徴として以下の点があげられる。

最初にファシリテーターとなる担当者が里親宅を個別に訪問し既定の聞き取りを実施し、その情報をグループでのセッションに生かすなど、個別訪問による事前の関係づくりによってプログラムへの里親の参加・継続率が高く維持されている。各セッション終了時に里親からの評価が行われ、相互性のあるプログラムとなっている。里親は基本的に一人の子どもを対象に行動観察、プログラムの演習・実践を施行するが、他きょうだいにも並行して応用することが可能である。また、子どもの行動やアタッチメントなどについて、事前事後の評価を行うことができる。

フォスタリング・フラワーパワー  
(通常版)



フォスタリング・フラワーパワー  
(思春期版)



## 2020年度フォスタリングチェンジ・プログラム実施状況の概要

｜ SOS子どもの村JAPAN/広島国際大学 松崎 佳子 ｜

フォスタリングチェンジ・プログラム(以下FCP)は、ネグレクトや虐待が与える影響を考慮しつつ、効果的なコミュニケーション、問題解決のスキルを重視し、里親が日々の生活の中で、子どもの行動のニーズを把握し対応できるようになること、子どもとの良好な関係性の構築を目的としている研修です。2016年度、福岡と熊本2箇所での実施でスタートしたFCPは、2019年度は、全国22ヶ所での実施と拡がっていました。

しかし、2020年4月新型コロナによる緊急事態宣言が行われ、各地の研修会やイベント等は、延期や中止をせざるを得ない状況となりました。緊急事態宣言解除後も、新型コロナ対策は続いています。その中で、時期の検討や消毒や安全な場所の設定などのコロナ対策を工夫することにより、全国14カ所で開催されました。通常版実施13カ所、思春期版1カ所でした。詳細は、以下表及び各地報告をご参照ください。

- ① コロナ対策として、各地域では、会場を広く設置し、換気の徹底、消毒やマスク、距離をとるための机やイスの配置の工夫、アクリル板を設置してのディスカッション、筆記用具等の個別の用意をおこなうとともに、特にFCPで大事にしているおやつについても、個別の配付にしたり、距離をとっての懇談にしたりと、様々な工夫を行っています。
- ② 2020年3月の養成講座は、新型コロナ対策により延期となり、2020年度についても、9月実施予定の養成講座は延期せざるを得なくなりました。しかし、2021年2月、3月にオンラインによる養成講座(4日間)を開催し、40名のファシリテーターの養成を行いました。また、今年度より、思春期版のファシリテーター養成講座(1日)もオンラインで実施しました。思春期版は、通常版を2回以上実施の経験があり、養成講座を受講したファシリテーターによって実施できます。
- ③ ファシリテーターのスキルアップ、質の保証のためのフォローアップミーティングはオンラインにより8月、10月、12月、1月と4回実施しました。

地域	実施時期	対象者	実施主体機関
宮城	6月~7月	6名(養育里親 5名、ファミリーホーム 1名)	NPO法人
山梨	9月~11月	6名(養育里親 3名、養子縁組 2名、ファミリーホーム 1名)	乳児院
広島	9月~11月	5名(養育里親 4名、養子縁組 1名)	子ども家庭センター・児童相談所
北海道	9月~12月	7名(養育里親 6名、養子縁組 1名)	里親支援機関
東京	9月~12月	8名(養育里親 6名、ファミリーホーム 2名)	乳児院
横浜	9月~12月	5名(養育里親 5名)	里親支援機関
大阪	9月~12月	12名(養育里親 6名、ファミリーホーム 1名、養子縁組 5名)	里親支援機関
福岡	9月~12月	6名(養育里親 3名、ファミリーホーム 2名、養育補助者 1名)	児童相談所・NPO法人
大分	9月~12月	4名(ファミリーホーム 3名、地域小規模児童養護施設職員 1名)	児童相談所
長崎	9月~12月	4名(養育里親 1名、養子縁組 3名)	里親育成センター
熊本	9月~12月	6名(養育里親 3名、養子縁組 3名)	任意団体
佐賀	10月~12月	8名(養育里親 2名、養子縁組 1名、ファミリーホーム 3名、養育補助者1名、乳児院職員 1名)	里親支援機関
京都	1月~3月	4名(養育里親 2名、養育補助者 2名)	里親サポートセンター
山口	1月~3月	6名(養育里親 3名、ファミリーホーム 2名、養子縁組 1名)	県子ども家庭課

## フォスタリングチェンジ・プログラム in 札幌

社会福祉法人常徳会 児童養護施設 興正学園 里親支援専門相談員 小野 実佐  
社会福祉法人常徳会 児童養護施設 興正学園 里親トレーナー 佐藤 慧

- 【実施主体】 社会福祉法人常徳会 児童養護施設 興正学園
- 【実施期間】 2020年9月11日~12月18日(毎週金曜日)10:00~13:00  
新型コロナウイルス集中対策期間により、2週間中断した。
- 【実施場所】 社会福祉法人常徳会 児童養護施設 興正学園 図書館
- 【参加里親】 7名(養育里親6名、養子縁組1名)  
出席率 98%
- 【実施体制】 同法人里親リクルーター含め2名が補助で参加



### 実施状況

今年で私たちの実践は、3年目を迎えました。これまでは養育の困り感を抱える方を中心に、こちらから参加を促す募集方法でしたが、今回は全札幌市登録里親を対象に参加者を公募しました。新たにご夫婦での参加や里父単独での参加という、ファシリテーター(以下FT)としては新たなチャレンジも加わり、7名の参加者と共にスタートしました。

### 新たなチャレンジについて

過去の参加者からFCPの話聞き参加を熱望されていた方、日々の養育の中で自分の里親像を模索していた方、委託初期の戸惑いの中で里父母共に研修しながら全てトライしたいと意欲的な方々、FT像を学び生活や仕事に活かしたいと手を挙げた方など、参加者の選定方法を変えたことで様々な動機をもつ個性豊かなメンバーが揃いました。

初のご夫婦参加は、「家庭での実践」を工夫する必要性がありましたが、お互いの視点や捉え方の差、共通点などが語られました。そのことが、里子の理解を双方向から捉えられ、グループが活性化されることに繋がりました。

### フォローアップミーティングからの学び

他県の取り組みを知り、新たな気づきや刺激、アイデア、課題などを得て、大変有意義な時間となりました。FTとして、グループを安全に運営していくために、ミーティングに参加することで改めて自分たちの実践を振り返り、研鑽に励む必要性を実感しました。

### まとめ

今年度、子育てを通して里親としてのあり方に改めて触れ、自身の課題に気づく体験をされた方が多くいらっしゃいました。

セッション終了時には養育スキルや知識の向上に加え、家庭環境や職場環境を自分のスタイルにより合うものへと変化させたり、これまで躊躇していたことにチャレンジするなど、参加者全員の行動変化を目の当たりにし、FCPの新たな可能性を感じました。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 仙台

子どもの村東北 川村 玲香  
子どもの村東北 佐藤 桃子

- 【実施主体】 子どもの村東北
- 【実施期間】 2020年6月14日～7月19日(毎週日曜日)9:00～13:00
- 【実施場所】 子どもの村東北 杜のホール
- 【参加里親】 6名(養育里親5名、ファミリーホーム1名)  
出席率 90%
- 【実施体制】 ファシリテーター2名



### 実施状況

昨年度にスタートしたプログラムだったが、コロナウイルス感染対策対応の為に延期していたプログラムを再スタートした形となる。延期している期間は参加者にファシリテーターより花や野菜の種を添えた手紙を送るなど、家庭での養育のヒントになるもの考えた。

再スタート後は、当初の日程が変更した為、2名の方がやむを得ず都合により不参加となった。しかし後の6名は毎回参加となった。

### プログラム時に工夫したこと

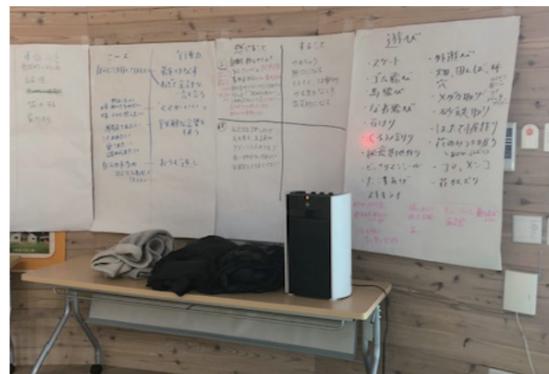
コロナウイルス感染対策の工夫が必要であった。マイクを使用の度に除菌、飲み物をペットボトルにする、席の間隔を空けるなどで対応した。また再スタートのため7回までの内容の振り返りを盛り込んだ。

また、できるだけ一人の人が長く話すことのないようにタイミングをみる、一人の悩みをみんなで考えるなど全員が同時に参加している感覚を意識した。

### まとめと課題

感染対策を考えた場合、今後はこうした講座のオンラインでの開催が必須となるであろうと思われる。しかし、講座に参加しお互いの顔を見て話すことへの要望は多い。「講座に参加することが自分のご褒美」「ここに来るとみんなが自分のことを労ってくれる」と皆さんが話す。フォローアップミーティングの要望も多いが、オンラインにした場合、様々な工夫が必要となる。例えば土日開催の場合、4時間を子どもがいる家で集中するのは難しいと思われる。こうしたことも含め、今後は開催に関しての工夫を考えなくてはならないであろう。

プログラムを通して里親さんの愛情の深さと前向きな姿勢に感銘を受けている。悩みながらも実践し、その結果を共有した今回のプログラムは非常に有意義であったと思う。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 東京

社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院 長田 淳子  
社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院 河村 千代  
一般社団法人 無憂樹 上村 宏樹

- 【実施主体】 社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院
- 【実施期間】 2020年9月17日～12月10日(毎週木曜日)
- 【実施場所】 社会福祉法人二葉保育園 法人本部 3階会議室
- 【参加里親】 8名(養育里親6名、ファミリーホーム2名)  
出席率 93%
- 【実施体制】 ファシリテーター 3名、スタッフ1～3名(状況に応じて変更)



### 実施状況

FCP12+を初めて実施した。参加された8名のうち、3名がFCPを受講しており、フィードバックや演習でも率先して発言されたので、初めて参加された方々も意見を出しやすい雰囲気ができた。

### プログラム時に工夫したこと

プログラム内容を家族で共有したり、学んだ内容を振り返るためのツールとして、要点をまとめたプリントを作成した。

コロナ感染拡大防止のため、講座日3日前からの検温、消毒、換気、手洗いの徹底など安全に受講いただけるように配慮した。

休憩の取り方については、菓子を一人分ずつ小分けにしてお渡しし、休憩スペースもいつもより距離を保てるよう工夫した。

### まとめと課題

同じような困り感を抱える受講者同士で悩みを共有したり、励まし合う姿が見られた。このコロナ禍において講座を開催し、つながりをつくれたことはとても意味のあることだったと思う。

課題としては、FCP12+を初めて行ったことで、資料の読み込みやタイムスケジュール作成などに時間を要したが、次回からは今回作成したものをベースに修正を加えて実施できれば大きな負担にならないと思われる。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 横浜

一般社団法人 こどもみらい横浜

- 【実施主体】 こどもみらい横浜(横浜市委託事業)
- 【実施期間】 2020年9月17日~12月3日(毎週木曜日) 10:00~13:00
- 【実施場所】 横浜万国橋会議センター
- 【参加里親】 5名(養育里親5名)横浜3期生  
出席率 95%
- 【実施体制】 ファシリテーター3名、事務局1名  
福島里美(こどもみらい横浜専属臨床心理士:日本女子大学講師)  
村田和木(こどもみらい横浜監事:社会福祉士)  
中山貴詞(こどもみらい横浜研修担当理事:社会福祉士)  
事務局:鈴木昌美(こどもみらい横浜児童相談員:社会福祉士)
- 【フォローアップ】 2021年3月 1日(月) 10:00~13:00 3期生  
2021年3月10日(水) 10:00~13:00 2期生

### 実施状況

- コロナ禍での感染予防をしながらのセッションで、堅苦しい雰囲気を心配していたが、過去2回のFCP同様受講者同士が徐々に打ち解け、それまで里親サロンでも話せない内容をグループの中で打ち明け、共有することができた。
- 各里親の課題に対して、参加者全員が自分ごととして捉えて、お互いを心配したりアドバイスをする場面が多く見受けられた。
- 大きな課題を抱えた参加者に対しては、福島心理士が中心となり、ご本人の同意を基に関係部門と連携を取りながら、総合的な支援に結びつけることができた。

### プログラム時に工夫したこと

- 感染予防のため、広い会議室の確保、検温、マスク着用、消毒の徹底。
- 大きな課題を抱えた里親に対する対応策について都度、情報交換をおこなった。



### まとめと課題

- 参加者が5人で少ないと感じていたが、結果として各家庭での出来事を話す時間を充分取ることができた。少ない人数だからこそその成果が得られた。
- コロナ禍ではあったが、直接仲間と会って話し合う重要性を改めて認識した。
- 参加者5人のうち3人はサロン等でFCP受講者からの推奨を受けたメンバーで、口コミの重要性を実感した。

## フォスタリングチェンジ・プログラム in 山梨

乳児院 ひまわり 大原 恵美子  
児童養護施設 ぐずはの森 田村 由美子

- 【実施主体】 子育て・発達の里 乳児院ひまわり
- 【実施期間】 2020年9月11日~11月27日 10:00~13:00
- 【実施場所】 山梨県中央児童相談所 会議室
- 【参加里親】 6名(養育里親3名、養子縁組2名、ファミリーホーム職員1名)  
出席率 92%
- 【実施体制】 ファシリテーター2名、補助職員3名
- 【フォローアップ】 未定



### 実施状況

コロナ禍において、実施の可否については関係者での協議を重ね、県内の感染状況を鑑みながら、11月27日をもって全セッションを無事に終了することができた。

### プログラム時に工夫したこと

入念な会場設営の確認、手洗い・消毒・換気の徹底、ロールプレイを含め、座席の間隔や休憩時間の飲食(食べている時は話をしない等)について配慮し、参加里親さんにも十分な理解を得ての実施となった。

### まとめと課題

厳戒態勢の中、今回参加された里親さんの多くが、“初対面”となるメンバー構成でもあったため、温かく心地よい雰囲気が形成できるものかと一層心配されたが、実際に始まってみると、里親さん同士で自然にコミュニケーションが図られ、開始早々「FCPに参加して皆さんに出会えたことが嬉しく、大変な思いをしているのは自分だけではないんだ…」と思え、本当に安心をした。参加して良かった。」といった感想が聞かれていた。

その背景には、コロナ禍における長期の自粛生活から蓄積された孤独感、ストレスの発散の場として有効な集いになったことも想像に難くないと感じる。

そうした良いグループとなった分、早速フォローアップや定期的な集いへの要望が聞かれているが、アフターコロナまでお預けとなっていることが非常に残念である。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 京都

社会福祉法人 積慶園／きょうと里親支援・ショートステイ事業拠点 ほっとはぐ 武田 由  
社会福祉法人 積慶園／きょうと里親支援・ショートステイ事業拠点 ほっとはぐ 藪下 聡美

- 【実施主体】 里親サポートセンター青い鳥
- 【実施期間】 2021年1月12日～3月30日(毎週火曜日) 9:30～12:30
- 【実施場所】 きょうと里親支援・ショートステイ事業拠点 ほっとはぐ
- 【参加里親】 4名(養育里親2名、養育補助者2名)  
出席率 96%
- 【実施体制】 ファシリテーター2名で運営



### 実施状況

京都市では2回目の実施。令和2年10月に新しくできた里親支援の拠点でもある<ほっとはぐ>を開催会場とした。青い鳥のホームページに研修案内を掲載し、里親家庭へは参加募集要項を送付し参加者を募る形をとった。



### プログラム時に工夫したこと

かねてから参加希望の意向を示されていた里親さんと、施設での養育担当者でもあり里親支援専門相談員でもある職員の参加となり、グループ創成への配慮や社会的養護下の子どもの理解などの部分については、通常より工夫が必要であった。また、今年度はコロナ対策を万全に行う必要があった。



### まとめと課題

今回の参加者は、養育経験や知識が豊富な方々であり、実際に里子や措置児を養育しながら、様々な課題にぶつかる中で、自分自身に変化が起きることを期待しての受講であった。それぞれの課題と目標が明確であり、それらを見失うことなく毎回のセッションで学ばれたことを着実に家庭で実践されるので、早い段階で子どもに変化が見られ始めた。

その変化をもたらしたのは、ご自身の変化であることに気付かれ、このメンバーで参加できたことに皆さん感謝されていた。

留意は必要ではあるが、施設職員がFCPの場を通して、里親と深くつながることができた経験となった。

## フォスタリングチェンジ・プログラム in 大阪

里親子支援機関えがお 牧野 博子 里親子支援機関えがお 辻本 真波  
大阪西本願寺常照園 高橋 宗近 ガーデンエル 浅田 みのり

- 【実施主体】 NPO法人 里親子支援機関えがお
- 【実施期間】 2020年9月18日～12月5日(毎週金曜日・土曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 門真市民プラザ
- 【参加里親】 12名 金曜日組6名(養育里親4名、ファミリーホーム1名、養子縁組1名)  
土曜日組6名(養育里親2名、養子縁組4名)  
出席率 95%(クロス補講6回分含む)
- 【実施体制】 ファシリテーター4名、スタッフ3名、保育3名
- 【フォローアップ】 6月19日、9月4日、12月22日(2019年度修了生)

### 実施状況

昨年度に続き、ファシリテーターにベテラン里親2名と施設職員2名とで開催。スタッフもファシリテーター取得予定者3名で、事前に本を渡し熟読していただきました。今年度は平日組と休日組と開催日を設け、充実した研修になりました。

- 平日組(里子が小学生)と休日組(里子が幼児)と傾向がわかれたため、ロールプレイを対象年齢に応じたものに変えて行いました。
- フォローアップをクロス補講という形で、通常研修と同じ質を実現しました。

### まとめと課題

大阪府の協力のもと、平日、休日の両日開催を行うことができました。またスタッフの充実に加え、昨年度の修了生もボランティアで加わっていただき、受講者との交流はもちろん、内容をよりわかりやすく受講者に伝えていただきました。オブザーバーにも行政の職員が入っていただき、同じようにセッションを受けていただくことでFCPの良さを伝えることができたと感じています

### プログラム時に工夫したこと

- コロナ禍のなか感染防止のために、折り紙や付箋、パズル等必要物品をファイルケースにまとめ、それぞれの受講者に配りました。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 広島

広島県西部子ども家庭センター 宮浦 孝子・吉田 暁子  
 広島修道院きずなの家 前田 佳代

- 【実施主体】 広島県西部子ども家庭センター・広島市児童相談所
- 【実施期間】 2020年9月3日～11月26日(毎週木曜日) 10:00～13:00 ※10/1はお休みとした
- 【実施場所】 児童養護施設広島修道院
- 【参加里親】 5名(養育里親 4名、養子縁組 1名)  
出席率 100%
- 【実施体制】 ファシリテーター3名、スタッフ4名、オブザーバー1名、託児スタッフ2名

### 実施状況

昨年度に続き2回目の実施。今年度は広島県と広島市の児童相談所が協力して参加者を募り、広島修道院が会場、スタッフ、茶菓等を提供し、3機関が連携して実施。

参加者の委託年数は1週間～7年間と幅が広く、最初は経験年数が高い方が短い方を励ましてグループのムードメーカーとして活躍された。回を重ねるごとに経験年数に関係なく個性や養育感を認め励ましあう温かな雰囲気になり、それぞれの個性が際立って誰一人欠かせないグループとなっていった。自主的・主体的に気づきや意見を出し合い、スキルをアレンジしたりくみあわせたりして、自身の子育てに合う形を見つけていかれる姿に、ファシリテーターやスタッフも多くを学ばせていただいた。

コロナの感染拡大による中断の可能性もある中、「まずはセッション4まで」を目標に開始したが、結果的に感染状況が小康状態の間に終わることができた。

### プログラム時に工夫したこと

- 広島県、広島市の児童相談所及び児童養護施設が協力して実施した。
- 利便性の高い会場を選び、最寄り駅と会場間は送迎バスを用意した。また、未就園児を養育中の方も参加しやすいよう託児を実施した。
- 一般的なコロナ対策の他に、①100人規模の会場を使用、②休憩は13分間に短縮、③ペットボトル、個包装のお菓子を用意し自分の席で飲食とした。
- プログラム中盤にあらかじめ予備日を設け、実施中に生じる事情に合わせてお休みを作れるようにした。コロナ休校もあった10/1を休みとしたため、出席率100%を達成できた。

- プログラムの普及、啓発のために各組織の管理職、本庁職員を中心に見学してもらった。
- ファシリテーター養成研修受講予定者がスタッフとなり、来年度以降の実施に向けた準備とした。

### まとめと課題

- 成果**
- ファシリテーターは昨年度と同じメンバーで、担当するパートもあまり変えなかったため、打ち合わせの時間を短縮できた。
  - マスク着用で表情が分かりにくいことの影響を懸念したが、特に支障はなかったと思う。
  - 3機関の協力により組織にかかる負担を分散できた。また、里親支援について組織を超えたスタッフ間の共通理解が生まれた。
  - 今年度も松崎先生のSV(2回)をいただき、疑問を解消しながら進めることができた。
- 課題**
- 平日の日に12回参加できる人は限られる。また、会場が遠く参加できない人がいる。
  - 継続して実施するための組織体制(ファシリテーターの業務負担増や人事異動によるファシリテーター不足の心配)



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 山口

ライクホームはるか 新谷 敏郎  
 共楽養育園 永吉 敦子  
 里親養育サポートセンターれりーふ 藤井 有紀

- 【実施主体】 山口県子ども家庭課
- 【実施期間】 2021年1月12日～3月30日(毎週火曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 乳児院なかべ学院 地域交流室(下関市古屋町)
- 【参加里親】 6名(養育里親 3名、ファミリーホーム 2名、養子縁組 1名)  
出席率 93.1%
- 【実施体制】 ファシリテーター 3名、スタッフ 3名(里親支援専門相談員)

### 実施状況

これまで同様、運営上の経費は県が予算化し、募集も県子ども家庭課がおこなった。当初9月中旬開始で考えていたが、新型コロナウイルス感染拡大もあり、年度後半へ開催時期を変更。これまで県中央部、東部で実施してきたので、今回は西部で実施。ファシリテーターは、県から業務委託された施設より派遣。年度内に終わるため、セッション11、12を一日で実施。アフターセッションは7月と10月に予定。

### プログラム時に工夫したこと

会場である乳児院と感染拡大防止対策について事前に確認し、参加者へ協力を依頼。初回、フェイスシールドを着用したり、換気扇や空気清浄機を使用した。声がこもったり、作動音が大きく聞き取りにくいという参加者の声があり、マスクに変更したり、換気扇は切り、空気清浄機は弱にし、1時間に1回と休憩中に窓等を開けて換気する対応に変更。食べ物は個別に袋に分けて用意。飲み物は紙バックや小さいペットボトル等。ポットは2ヶ所に設置。恒例となっていたスタッフ手作りのおやつも今回はなし。その分、事前訪問で聞いていた参加者の好きな物を用意。その他、休憩中の話題になるようなお菓子を選んで用意。最終日の昼食は、カレーの販売をしている参加者に2種類のカレーを注文。会場で炊いたご飯と共に皆で美味しく頂いた。

今回、参加者に夫婦が1組おり、ペアやグループにならないよう配慮した。



### まとめと課題

参加者一人ひとりの性格を把握し、ファシリテーターで共有し、それぞれについてどのようなところを褒め、認めていくか確認しながら実施した。12セッションを終えて、個人差はあるが、全員に肯定的変化を見ることが出来た。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 福岡

福岡市こども総合相談センターえがお館 高橋 恵子(里親対応専門員)  
(特)SOS子どもの村JAPAN 松崎 佳子(理事、臨床心理士・公認心理師) 羽田 優(公認心理師)

- 【実施主体】 福岡市こども総合相談センター (特) SOS子どもの村JAPAN
- 【実施期間】 2020年9月11日~12月4日(毎週金曜日) 10:00~13:00
- 【実施場所】 福岡市こども総合相談センターえがお館 家族療教室
- 【参加里親】 6名(養育里親 3名、ファミリーホーム 2名、養育補助者 1名)  
出席率 93%
- 【実施体制】 ファシリテーター 3名、補助スタッフ 1名
- 【フォローアップ】 2020年度受講生対象: 2021年2月26日(予定)  
2016~2019年度受講生対象は延期



### 実施状況

例年5~7月に開催しているが、新型コロナウイルスの感染拡大また緊急事態宣言を受けて今年度は9月開始に延期。受講生は3月の時点で確定していたため、6月に電話にて研究調査の説明と依頼を行い、郵送にて3カ月前の評価冊子の配布・回収を行った。8月に全家庭への家庭訪問を行い、9月にプログラム開始、12月に修了した。

### プログラム時に工夫したこと

新型コロナウイルス感染予防対策を行った。(検温、手指消毒、マウスシールドの着用、部屋の換気、休憩時間を10分×2回に調整、ソーシャルディスタンスを保つ、マジックやバインダーなどは共有しないように個別に準備、里親さんご自身や同居する家族に発熱や風邪の症状など体調不良がある場合には参加を控えていただくなど)

### まとめと課題

●3カ月前評価冊子への回答を依頼したが、コロナ禍ということもあり、電話での説明となった。お会いしたことがない里親さんへ電話でプログラムや研究調査について

説明することの難しさがあり、里親さんの中には困惑される方もいらっしゃった。受講が決まってから3カ月前評価の依頼や家庭訪問など、プログラムが始まるまでの期間も丁寧に関係づくりをしていけるよう配慮したい。

●対象児が全員未就学児ということもあり、後半のセッションに進むにつれて問題行動が徐々に改善され、肯定的なしつけの部分は予防的な意味で学ばれる方が多かった。最後には、「感情的に怒らなくなった」「対処法を知っているという安心感がある」「自信がついた」「本当は問題行動の改善を期待していなかったのが驚いた」という感想をいただいた。また、「いろいろな家庭の話聞いて楽しかった」「金曜日は自分のためだけに時間を使えた」などFCPに参加することで特別な時間を過ごしていただけたように思う。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 佐賀

児童養護施設 洗心寮 小川 健太郎 児童養護施設 済昭園 石橋 みどり  
児童養護施設 慈光園 松尾 直樹 佐賀県里親支援こねくと 野口 裕美子

- 【実施主体】 佐賀県里親支援こねくと 佐賀県里親支援専門相談員、家庭支援専門相談員
- 【実施期間】 2020年10月1日~12月17日(毎週木曜日) 10:00~13:00
- 【実施場所】 佐賀県総合福祉センター 勤労身体障害者体育館 会議室
- 【参加里親】 8名(養育里親 2名、養子縁組 1名、ファミリーホーム 3名、養育補助者 1名、乳児院職員1名)  
出席率 87.5%
- 【実施体制】 ファシリテーター 4名、補助者: 里親支援専門相談員 1名
- 【フォローアップ】 6月23日、9月8日、12月15日(2019年度参加者の希望により3・4か月に1回開催)

### 実施状況

5月より実施予定がコロナ自粛にて10月へ延期開催。今回は佐賀県ファミリーホーム協議会においてFCP紹介、アテンディング等体験していただき参加につながる。参加者それぞれの立場の意見を尊重し合い、穏やかな雰囲気がとても良かった。他者の体験談、考え方を聴くことでより理解を深め、視野が広がり里親自身の価値観に変化が生まれた。

### プログラム時に工夫したこと

パワーポイント以外の補足資料を作り理解やすく工夫した。季節を感じる装飾、雰囲気作りを心掛けた。また参加者も持ち寄りみんなで作り上げる一体感があった。(すすき、かやねずみの巣、手作りお菓子、自家飼育鶏の卵、etc)前回の反省、振り返りから、内容や進行状況などを考慮し、時間内に終了することができた。

### 反省・今後の課題

- 家庭での実践の重要性が伝わっていなかったように思う。
- 選択的無視の伝え方をより一層工夫していきたい。
- ファシリテーターのロールプレイを楽しみにされている様子は嬉しかったし、伝わっていると実感できた。
- 実施中、一時保護委託があり欠席が増えた方もいらっ

しゃった。

- 小学高学年以上の子どもを委託されている方も多く、中学生以上の養育の悩みも話され、12+の必要性を感じた。
- 参加者の確保。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 大分

児童養護施設 小百合ホーム 御手洗 隆史(臨床心理士)  
乳児院栄光園 本庄 公多子(保育士)  
乳児院栄光園 松井 美穂(助産師)  
児童家庭支援センター「和」 山本 さやか(心理担当職員)

- 【実施主体】 大分県中央児童相談所
- 【実施期間】 2020年9月17日～12月10日(毎週木曜日) 10:00～13:00 全12回
- 【実施場所】 大分県中央児童相談所
- 【参加里親】 4名(ファミリーホーム 3名、地域小規模児童養護施設職員 1名)  
出席率 93%

### 実施状況

平成29年度に初めて本プログラム実施後、2回目の実施となりました。今回は児童相談所が実施主体として会場設営等を行い、4名のファシリテーターが12回のセッションを担当しました。また4名の参加者に加え、児童養護施設の里親支援専門相談員2名も参加し、6名のメンバーでスタートしました。

### プログラム時に工夫したこと

それぞれの参加者が目的意識をもって参加しており、学ぶ姿勢は十分であったため、より効果的な学習となるよう、楽しくリラックスして参加できる雰囲気作りに心がけました。お茶やお菓子、基本の会場の飾りに加え、時季に応じた服装や飾り、子どもに大人気のキャラクターを取り入れるなどし、場を盛り上げました。また、毎号ニュースレターを発行し、プログラム開始時に前回の復習を行ったり、用語集を作成したりして、テキストの内容の理解が進むよう配慮しました。

### 参加者の声

各セッション学習後に各家庭で取り組む課題が出され、次のセッション時に報告するサイクルが非常にわかりやすく、体験を通して自身のスキルアップを実感できたとの声が多く聞かれました。また、実際の養育ですぐに取り入れ、適切な関わりにより子どもの姿の良い変化にもつながったとの報告もありました。

### まとめと課題

学習の効果を実感した参加者の声を県内の里親に広げ、今後も実施していきたいと考えています。一方、日々養育に携わりながら全てのセッションへの参加は困難との声もあり、検討が必要だと感じています。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 長崎

社会福祉法人光と緑の園向陽寮 田添 貴子  
社会福祉法人光と緑の園乳児院 三浦 奈利子

- 【実施主体】 長崎県里親育成センターすくすく
- 【実施期間】 2020年9月30日～12月16日(毎週水曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 社会福祉法人 光と緑の園 おひさまハウス 研修室
- 【参加里親】 4名(養育里親 1名、養子縁組 3名)  
出席率 98%
- 【実施体制】 ファシリテーター 2名(向陽寮田添里親SW・乳児院三浦里親SW)  
他3名(すくすく専任・事務員・ローテーションで里親SW)  
オブザーバー: 児童相談所職員 児童家庭支援センター職員など



### 実施状況

- 4月の年間計画(里親育成センターすくすく)を立てる時点で、他の研修などと調整しながら日程を決定しました。参加者については、養育中の全里親へ案内文書を送りました。参加者は自らの申し込み、児相からの推薦、里親SW間で検討して決めました。1名の里親さんが申し込み時点で交流中でしたが養育に不安があるとの事で、また、児相からの推薦もあり受講されることになりました。
- コロナ禍ということもあり、再募集や職員も入れず少人数で実施しました。
- 里子についてはレスパイト・ケア利用。実子については託児を実施しました。

### プログラム時に工夫したこと

- 今回は、新型コロナウイルス対応のため、環境面の設備(お菓子は1人ずつラッピング、飲み物は間隔をあけて配置)や、体調チェック表、オブザーバーなどの人数制限などを設けて実施しました。
- 今年度も、毎回1名の里親SWがフリップチャート書き、プリント配布などを行っていただきました。

### まとめ

- 今回で3回目となり、打ち合わせや準備については慣れてきたこともあり短時間で済みました。
- 今回の参加者からは、「前向きになれた」「ゆとりができた」「楽しい時間が過ごせた」などの評価が有りました。
- 12+について、里親さんから受けたいという声が聞かれたので、ファシリテーターのスキルアップに努めると共に、開催のタイミングなど今後検討が必要ではないのかと思っています。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 熊本

NPO法人優里の会 八谷 齊  
熊本乳児院 傘 正治  
養育家庭支援センターきらきら 山川 浩徳

- 【実施主体】 フォスタリングチェンジTeamくまもと
- 【実施期間】 2020年9月17日～12月3日(毎週木曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 熊本県中央児童相談所大会議室
- 【参加里親】 6名(養育里親 3名、養子縁組 3名)  
出席率 87.5%
- 【実施体制】 ファシリテーター 3名、スタッフ 3名

### 実施状況

今年度は新型コロナウイルス感染予防のガイドラインを独自に定めることからスタートし、開催にあたってソーシャルディスタンス等に配慮した会場レイアウトにより実施。体調管理、出席等についても事前の訪問時に説明を行い参加者の同意を得ている。

プログラムのなかでは、参加者6名の方に委託されている子どもの年齢が近かったこともあり、それぞれが抱える悩みに共通する部分が多くみられた。



### プログラム時に工夫したこと

新型コロナウイルス感染予防のため、距離をとるための机の設置やアクリル板をはさんでのディスカッションやロールプレイ、おやつや筆記具等の個別の準備など安心して参加できることについて心掛けた。

また、飲食の取り扱い方や参加者同士の距離をとったことにより参加者同士の親和性を高めることに時間が掛かったため、意図的にディスカッションの時間、話題を提供している。欠席者の補講については、Zoomを使い可能な限り実施した。

### まとめと課題

今回、感染予防に重きを置き、これまでの形式から会場レイアウトやロールプレイの在り方など変更した点があった。これまでの実施と比較をすると様々な点(参加里親によるピアSV、ロールプレイなど)で難しさを感じる箇所があり、これまでの開催形式の素晴らしさや意図を実感させられた。



## ファシリテーター フォローアップミーティング

各地域でのプログラム実施を円滑なものにするため、養成講座修了後もファシリテーターが集まり、疑問点の解消や支援者同士の繋がりを共有する「ファシリテーターフォローアップミーティング」を実施しています。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、全て「オンライン」で、計4回開催されました。

### オンライン開催

- ▶ **第一回目 2020年8月4日** 参加者17名  
参加地域: 青森、神奈川、長野、京都、和歌山、鳥取、広島、山口、高知、長崎
- ▶ **第二回目 2020年10月6日** 参加者4名  
参加地域: 青森、山梨、山口
- ▶ **第三回目 2020年12月1日** 参加者11名  
参加地域: 北海道、長野、山口、高知、佐賀、長崎、熊本
- ▶ **第四回目 2021年1月19日** 参加者17名  
参加地域: 茨城、千葉、東京、神奈川、長野、大阪、広島、福岡、宮崎、熊本、鹿児島

### 参加者ご感想

- 皆さんからたくさんエネルギーをもらった。
- 皆さんと顔合わせが出来てよかった、励みになった。
- 意見交換を今後に生かす。勉強会もやりスキルアップする。
- 里親さんのお宅に訪問してオンラインの環境を整えていく。
- 次回はネット環境を整えたい。
- コロナ禍にもかかわらず皆さまのご活躍している話を聞くことが出来、とても参考になった。
- フェイスシールドを検討してみる。先生方の顔を見て安心した。
- 各地域からのお話を伺うことが出来、とても良い学びとなった。

### 考察

皆さまからオンライン開催上ネット環境を整える等の課題をご指摘いただく一方、コロナ禍で対面で行う機会が減ってしまったからこそ、画面上でも意見交換出来る機会が励みになったというお声が多く寄せられた。このようなご感想、そして、世相を鑑みると、FCPの活動をより取り組みやすいものにするためには、今後対面のみならず、オンラインの側面からも様々な取り組みに挑戦していくという重要性がますます色濃く帯びてきたと思料する。

### コンサルテーションデイ

2021年3月に開催予定だった本年度のコンサルテーションデイは、残念ながら新型コロナウイルスのため開催延期となりました。現在、開催時期を検討中です。



## プログラムに関する里親の評価

プログラム終了後、計14か所(北海道、宮城、東京、神奈川、山梨、京都、大阪、広島、山口、福岡、佐賀、大分、長崎、熊本)の受講者87名に対して、調査を実施致しました

### ◆最も役に立つと思った考えやスキル(1人5つまで回答可。回答者83名)

スキル名	回答数
● 選択的無視	46名
● アテンディング	37名
● 効果的に褒める	33名
● ストップ・プラン・アンド・ゴー	25名
● タイムアウト	20名

### ◆子どもの行動の変化(5段階評価 1:ひどくなった ⇄ 5:大変よくなった)

実施場所14か所の合計 対象児(回答者82名) 平均点 4.2点/5点満点  
 実施場所14か所の合計 きょうだい児(72名) 平均点 3.8点/5点満点

#### 関係性

- 相談することが増えた ● 夜寝る前に「お母さんありがとう」と言うことがある
- 好き嫌いをはっきり言えるようになった(前は私の顔をうかがっていたような)
- 素直に甘えることが増えた ● お互いの意見、意思を話し合える
- 里親さんの体調を気遣うようになった

#### 感情調整

- 大人へのアピールがなくなり、内と外が形成された ● 気持ちの切り替えが早くなった
- 切り替え上手になった ● とげとげしい言葉遣いがなくなった
- 子どもの心が穏やかになっていると思う ● 癇癪を起こす割合が低くなった
- 笑顔や自然なふるまいが増え、穏やかになった

#### 行動

- 大切な話に耳を傾けるようになった ● 叩く、噛む等が無くなった
- 行動的になり、お手伝いを頼めばすぐにしてくれるようになった
- 一緒に遊ぶことでYouTubeをあまりみなくなった ● 家でトイレに行くのを嫌がらなくなった
- 家族で決めたルールを守れた ● 食事の離席が少なくなった

#### 学校

- 明るく元気に行っている(自信が持てる日常生活) ● 学校の帰りが早くなった
- 学習力がついた ● 登校時の身支度を進んでする

#### その他

- 自我の芽生え(1歳6か月) ● 笑顔が増えた ● 言葉で気持ちが言えるようになった
- 下品な言葉をあまり言わなくなった ● 3人(本児、里親夫婦)でドッチボールをすることを予定に入れた
- 明るくなった ● 気持ちを素直に表現できるようになった ● お風呂に楽しく入る

### ◆里親と里子の関係性(5段階評価 1:とても悪い ⇄ 5:とても良い)

実施場所14か所の合計(回答者69名) 平均点 4.3点/5点満点

- 子どもに対して要求が減った。傷つける言葉が減った。(学校行け、そんなんでいいの等)何かを信じて待つしかないとの心境が深まった。
- 子どもからの「好き、好き」が大きくなった。
- 養育が一時的になりがちだったが、子どもの目線に立てるようになった。
- よく聞くことを心がけたことで良く話してくれるようになった。
- 少し愛情が持てるようになった。子どもの背景を考えた時に心が動くようになった。
- お互いに意見を言い合える。いい関係になった。
- 子どもに接する時間が少なかったが、勉強したことを実践することが子どもに対しても、自分にとっても、よかった。
- 意識して時間を作りアテンディングすることで一緒に過ごすことが多くなり幸せである。

### ◆里親としての感じ方への影響

#### 内省

- まずは立ち止まることを教えてもらった。
- コミュニケーションはもちろん、子ども自身を信じてあげる。大人も子どもも自分の力を出せるようになる方法だと思う。相互に思いやれる力も含めて少しずつステップアップできるものと思う。
- 子どもの最善の利益の為に自分は我慢するものだと思っていたが、自分を大切にすることを学んだ。

#### 変化

- 考え方が広がった。 ● 気楽に子育てができるようになった。
- 子どもの行動に対して肯定的に捉えることが出来、前向きになれた。
- 自信が持たなくて否定的な私だったが、元気を頂けた。
- 注目を与えることの重要性、関わるということの見え方が変わった。
- 2回目でしたので、1回目よりは理解が進み、課題の取り組み方も違った。

#### 自信

- 復習をしている感じがあったので、自分のやり方は間違っていないと確認ができて安心した。
- 今まで子どもと接したことも間違いでなかったと感じられた。
- 初めての子育て、中途養育は不安であるが、子どもの幸福になる権利を保ち、花開かせることは必ずできる。
- 里親としての感じ方に影響はなかったと思う。里親としてやっていく自信が強くなったと思う。

#### 仲間

- 自分は一人ではない ● 悩みに対して、理解者も解決策もある。
- 他の里親さんの思いを聞いて良かった。励みになった。子どもの気持ちをよく考えるようになった。

### ◆家庭訪問を受けたことでどう役に立ったか(複数回答可)

スキル名	回答数
a.全く役に立たなかった	1名
b.コースに参加することに自信が持てた	35名
c.里親として支援されていると感じた	54名
d.ファシリテーターは、里親として、私が必要としていることに関心があるとわかった	34名
e.その他(自由記述)	23名

- どのような雰囲気かという不安が安心に変わった。事前にお会いすることで親近感が生まれた。
- 困っていることを詳しく話ができ、心の事前準備ができた。
- 不安に思ったことについてなんでも聞いてくださり、安心して受講できた。
- 親も学んで成長する必要がある。そして成長ができると希望を与えてもらった。
- 私自身のことをとても理解してくれたと感じた。
- 良いことも悪いことも全部受け止めてくれる安心感。
- きちんとした研修だと思った。12回全部参加しようと思った。

## 2020年度の実践と今後の課題

| 広島国際大学・SOS子どもの村JAPAN 松崎 佳子 |

フォスタリング・チェンジプログラム(以下FCP)は、ネグレクトや虐待が与える影響を考慮しつつ、効果的なコミュニケーション、問題解決のスキルを重視し、里親が日々の生活の中で、子どもの行動のニーズを把握し対応できるようになること、子どもとの良好な関係性の構築を目的としている研修です。2016年度、福岡と熊本2箇所での実施でスタートしたFCPは、2019年度は、全国22ヶ所での実施と広がっていましたが、20年度は新型コロナの対策のため、延期、中止をせざるを得ない地域もある状況となりました。その中で、消毒や安全な場所の設定などのコロナ対策を工夫することで、14カ所で開催されました。通常版実施13カ所、思春期版1カ所でした。

ファシリテーター養成については、2019年度より日本人トレーナーによるファシリテーター養成講座を実施することができるようになりましたが、2020年3月の養成講座は新型コロナ対策により、延期となりました。2020年度についても、9月実施予定の養成講座は延期せざるを得なくなりました。しかし、ファシリテーターの異動等により実施が困難な地域も出てきていることから、どのような形であれば養成講座の開催が可能か検討し、2021年2月、3月にオンラインによる養成講座(4日間)を開催しました。また、今年度より、思春期版のファシリテーター養成講座(1日)もオンラインで実施しました。対面形式、グループワークのなかで培われていくFCPの質をどのように保証できるか検討を重ね、以下の条件も加えて実施することになりました。一つは、すでに実施されている地域機関からの補充としてのファシリテーターの養成です。この場合は実施体験ができるので可能と判断しました。もう一つは、初めて実施を予定している地域機関の方については、養成講座を受講後、近隣の地域の実施時に見学し雰囲気等の体験をすることです。また、オンライン養成講座受講者のための対面補足研修も計画しています。ディスカッション、ロールプレイを多々活用する養成講座をオンラインで実施することは、困難ではな

いかと思われましたが、事務局の皆様のサポートを受けながら実施することができました。オンラインは対面と比べどのようなであったか、その日の評価や修了時のアンケートでは、対面実施時とそれほど変わらない感想をいただき、トレーナー、事務局としてはホッとしているところです。しかし、今後さらにFCPのもつ繋がり、親近感を体験できるよう検討していく必要があると思います。

一方、ファシリテーター養成講座をオンラインで実施できたことにより、各地域での里親さんへの実施についても、オンライン使用が可能かどうか、対面との組み合わせ等により実施の可能性が広がるのではないかなど、21年度はその実現性について検討していきたいと考えています。里親が広域に分散している地域も多々あります。そのような場合、オンラインを活用したプログラムの実施は、非常に有意義なものとなるのではないかと思います。2019年度からFCP事務局を一般社団法人無憂樹に設置し、ファシリテーター養成講座やフォローアップミーティング、コンサルテーションデイ等の企画、運営、連絡窓口等を一本化するなど体制を強化しています。今後も全国各地で実施されるFCPが質の保証された研修であるためには、ファシリテーター養成後の質の保証が必須であり、そのためのシステムづくりとネットワークを構築していくことが必要です。

今年度より、各地でフォスタリング機関の設置が始まりました。リクルートから事前研修、マッチング、委託後研修・支援が一貫した体制で実施できるようになります。里親の増加は、里親支援と共に推進される必要があります。里親養育は、中途養育であり、愛着、関係性の構築の難しさを抱えた養育です。FCPは、それらに対して里親自身に取り組むことを支援する研修です。里親委託後研修として位置づけられ、各地で実施されることを願っております。

最後に、FCPの日本導入及び実施に関し、多大な助成支援をいただいている日本財団に感謝申し上げます。

発行 2021年4月  
 一般社団法人 無憂樹  
 〒160 - 0023  
 東京都新宿区西新宿7-4-7 イマス浜田ビル5階  
 TEL : 03-6869-0192 FAX : 03-6869-0228  
 MAIL : info@muyuju.org  
  
<http://muyouju.com>